



研究部会報告

●組合せ最適化●

・第5回

日時：平成5年12月4日(土) 14:00~17:30

出席者：35名

場所：東京理科大学野田キャンパス

オーガナイザー：関谷和之(東京理科大学)

テーマと講師：(1)「k out of p社会厚生関数に対するArrowの定理の拡張」内藤 渉(東京工業大学総合理工学研究科)

p個の選択肢からk個を選択するという、より一般的な状況での社会厚生関数に対するArrowの定理の拡張についての報告があった。

(2)「PseudomatroidとBisubmodular Function」安藤和敏(筑波大学社会学系)

Bisubmodular Systemの説明とこのsystemから得られるいくつかの理論的な性質についての報告があった。

●最適化モデルとその周辺●

・第13回

日時：平成5年10月2日(土) 14:00~17:00

出席者：24名

場所：KKR加賀

テーマと講師：(1)「ネットワークデザイン問題について」片山直登(金沢工業大学)

ネットワークデザイン問題は、ネットワークを構築する費用とフロー費用とのトレードオフを考慮して、多品種のものを移動・輸送できる適切なネットワークの形態を決定する問題である。ラグランジュ双対問題から見た従来の研究の解説を行ない、予算制約をもつ問題と容量制約のないネットワークデザイン問題に対するラグランジュ緩和法を用いた下界値の解法と近似解放を示した。さらに、75ノード、2775リンクまでのネットワークの数字実験の結果を示した。

(2)「株式評価における統計的手法」西山昇(和光証券) 米国における証券業にたずさわる実務者、特にポー

トフォリオ・マネージャーが、統計的手法をどのように活用しているのかを紹介し、実際のデータを使っていくつかの手法で分析を試みた。活用されていると考えられる主な統計的手法は以下の5つである：(1)平均・分散、(2)単回帰、(3)重回帰、(4)多変量解析、(5)時系列分析。

(3)「産業内貿易下の輸入関税の厚生効果」垣田直樹(富山大学経済学部)

Brander and Spencer (1984) は、産業内貿易モデルで輸入国の最適政策が関税政策であることを示したが、線形の費用関数を用いていたため、輸入国による輸入関税の賦課は、輸出国の厚生水準を引き下げるモデルであった。後に、Anis and Ross (1992) において、輸入国の輸入財生産を考慮しない単純化されたモデルで、輸入関税は輸入国のみならず輸出国の厚生も高めることが示された。

本稿では、非線形の費用関数を用いた産業内貿易モデルで、(1)関税が財価格に与える効果、(2)関税が両国独占企業の母国市場向け生産に与える効果、(3)価格弾力性の大きさ、(4)自由貿易での両国独占企業の輸出量の差異、を考慮すると輸入関税はパレート改善政策に成り得ることを示した。

会合記録

1月7日(金)	普及小委員会	4名
1月13日(木)	OR基本課題検討委員会	10名
1月14日(金)	庶務幹事会	5名
	研究普及委員会	10名
1月17日(月)	機関誌編集委員会	10名
1月21日(金)	理事会	13名
	国際委員会	11名
1月26日(水)	表彰委員会	11名

第5回理事会議題

1. 平成5年度第4回理事会議事録の件
2. 入退会の件
3. 国際会議の件 (APORS進捗状況)
4. 各委員会報告
 - 研究部会の新設ならびに継続の件
 - RAMPシンポジウム収支決算報告の件
 - 平成5年度OR企業サロンの件
 - 平成6年度事業計画・予算案の件